

労働安全衛生

労働安全衛生の主な目的は、従業員の安全と健康を保持するとともに、災害および事故を未然に防止することです。

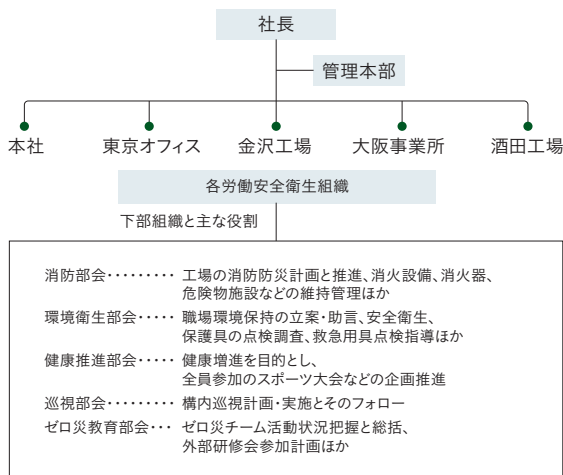
当社グループは、労働安全衛生法および関連法令を遵守することはもとより、従業員の健康増進を推進していきます。その結果、従業員が健康で組織が元気になり、労働生産性の向上につながるため、従業員の健康増進や組織風土の改善に取り組んでいます。

当社グループにおける
休業災害件数

1件

(2024年12月～2025年11月)

労働安全衛生の組織体制(大阪有機)



2025年度保安防災訓練実施結果(当社グループ)

対象期間：2024年12月～2025年11月

	金沢工場	酒田工場	大阪事業所	神港有機
総合防災訓練	●		●	
消火訓練	●	●	●	●
消火機具取扱い教育	●	●		●
静電気教育	●	●	●	●
緊急時対応テスト(漏洩・臭気・火災・重合など)	●	●	●	
運送業者教育	●	●	●	●
消防用設備教育(消火栓・自火報など)	●			●
緊急・救急・保護具教育	●	●	●	●
毒劇物取扱い教育	●		●	●
避難訓練	●		●	●
衛生教育	●			●
高圧ガス教育	●	●		
消防用設備教育(化学消防車)	●			●
安全管理手法	●			
がん原性指針教育		●		
BCP-BCM防災事業継続演習	●		●	●
予防規程		●	●	●
末端回収訓練		●	●	●
救急およびライフゼム装着訓練	●	●	●	
化学物質による健康障害リスクについての教育	●	●		
化学物質リスクアセスメント(クリエイトシンプル)教育	●	●	●	●

本社

防火・防災訓練

当社本社(管理部門、営業部門、内部監査室など約40名が勤務)は、2025年11月26日(水)、野村不動産大阪ビルが主催する入居者向け防火・防災訓練に参加しました。本訓練は同ビルで年1回実施されており、当社は昨年に続き今年も参加しました。訓練は、震度6強の地震発生を想定したビル内一斉放送から始まり、従業員は机の下に保管している個人用ヘルメットを着用し、指示があるまで身の安全を確保しました。その後、ビル内放送による被害状況の共有を経て、出火を想定した避難指示が発令され、当社からは各部署より選出された7名が11階から階段を使って避難経路を確認しながら1階まで移動しました。避難後は、水消火器を用いた初期消火訓練が行われ、今年入社した社員も参加しました。実際に消火器を操作することで、火災発生時の初動対応を体験的に学ぶ機会となりました。当社では、平時からの備えと実践的な訓練を通じて、従業員一人ひとりの防災意識の向上と非常時における安全確保体制の強化に取り組んでいます。今後も、ビル管理会社や関係者と連携し、安全・安心な職場環境の維持に努めてまいります。



東京オフィス

自衛消防訓練

東京オフィスが入居するKDX江戸橋ビルにおいて、入居する全事業者を対象とした自衛消防訓練が実施され、当社も参加しました。本訓練は、地震発生に伴う火災を想定し、災害時における迅速かつ適切な初動対応と、安全な避難行動の確立を目的として行われたものです。

当日は、9階から1階までの避難訓練を実施し、非常時における避難経路や行動手順を確認しました。あわせて、各事業者の代表による水消火器を使用した初期消火訓練を行い、火災発生時における初期対応の重要性を再認識しました。

当社では、営業部門、購買部門、受注・製販調整部門といった多様な職種が同一拠点で業務を行っていることから、部門横断での連携を重視した防災体制の構築に取り組んでいます。今後も継続的な訓練を通じて、従業員一人ひとりの防災意識の向上と、安全・安心な職場環境の維持に努めてまいります。

金沢工場

当工場では、従業員の安全確保と事業継続を最優先に位置づけ、防災対策を体系的に推進しています。年間保安計画に基づき、安全衛生教育や防災訓練を定期的の実施し、災害発生時における迅速かつ確な対応力の向上に努めています。

また、防災安全課を中心に、地震・火災・洪水など多様なリスクを想定した事業継続計画（BCP）を策定し、想定を超える災害にも対応できる体制を構築しています。

さらに、緊急連絡網や避難経路の整備、地域消防機関との連携強化など、従業員および地域社会の安全確保に向けた取り組みを継続的に進めています。これらの活動を通じて、安心・安全な職場環境の維持と、社会的責任の遂行を目指しています。

総合防災訓練

当工場では、毎年8月または9月に、大規模地震を想定した総合防災訓練を実施しています。避難誘導や初期消火など、年間を通じて実施している個別訓練の成果を総合的に検証し、災害時における迅速な対応力の強化を図っています。



避難訓練

当工場では、津波発生を想定した避難訓練を定期的に実施しています。

地震発生時や津波警報発令時に冷静な行動がとれるよう、訓練を通じて身を守る行動や避難場所・避難経路の確認を徹底しています。



消防用設備教育(化学消防車)

当工場では、火災発生時の迅速な初動対応を目的として、化学消防車を用いた消防用設備教育を実施しています。消火設備の操作方法や安全手順を習得することで、非常時における初期対応力の向上に努めています。



酒田工場

酒田工場では、労使一体となって法令遵守と無事故無災害を目指し、年間保安計画に基づいた安全衛生活動を推進しています。消火訓練や漏洩訓練、化学物質リスクアセスメント評価などを計画的に実施し、日常業務における安全で働きやすい職場づくりに継続的に取り組んでいます。

その成果として、本年はゼロ災1000日を達成しました。

また、6月には暑さ指数（WBGT）の現状把握を行い、各プラント1階に防爆型扇風機を配備しました。製造課・検査課を中心に、作業内容ごとにVOCモニターによる自主測定を実施し、VOC濃度が高い作業については、局所排気の強化や防毒マスクの着用など、作業環境の改善・改良を推進しています。

消火訓練

2025年7月、延長日を利用した教育訓練として、計4回の消火訓練を実施しました。初めに小型ポンプ操法の教育ビデオを視聴し、その後、火点を設定した実践訓練を行いました。

訓練では、隊長から隊員への指示命令が明確となり、火災発生から鎮火までの一連の手順を確認することができました。また、消火班対応手順に基づき、消火ポンプの操作方法や消火ホースの取扱いについても理解を深めました。



救急および漏洩訓練・ライフゼム装着訓練

2025年6月、延長日を利用した教育訓練として、計4回の漏洩訓練を実施しました。製造プラントから溶剤が漏洩し、雨水路を通じて末端槽で回収する状況を想定した訓練です。

訓練では、防災倉庫に保管されている資機材を使用した実践形式で実施し、その後、指示命令系統や資機材の保管方法、表示方法などについて振り返りを行いました。これにより、有事の際の課題を明確にすることができました。

あわせて、全員でライフゼム（空気呼吸器）の装着訓練を実施しました。



運送業者教育

2025年10月、6社の運送業者に工場へ来ていただき、運送業者教育を実施しました。

当社の物流に関する品質活動および環境活動の取り組みについて説明し、お客様に対する安全と信頼を確保するためには、「製品の安全」と「確実な運送」が不可欠であることを共有しました。化学物質の取扱い方法やデリバリー・サポート品質に関する要望、運用管理上の変更点についても説明を行い、理解を深めていただきました。

また、物流業界における課題である「2024年問題」についても相互理解を図り、今後も運送業者と連携を強化し、双方にとって有益な関係構築を目指してまいります。



大阪事業所

大阪事業所では、年間保安計画に基づき、安全衛生および防災に関する各種教育訓練を計画的に実施しています。毎月開催している安全衛生委員会では、従業員からの意見を積極的に取り入れながら、安全衛生に関する改善活動や職場巡視を行い、作業環境の整備および安全意識の向上を図っています。

美化活動

事業所周囲および構内において除草作業を実施しました。これにより、リフト走行時や各施設への移動時に発生していた羽虫による影響の軽減を図り、作業時の安全性向上に寄与しています。

あわせて事業所外周の清掃も行い、職場環境の美化および良好な景観の維持に取り組んでいます。

総合防災訓練

巨大地震の発生を想定した総合防災訓練を、全従業員参加のもと実施しました。本訓練では、避難・集合・安否確認に加え、地震に伴う火災を想定した初期消火訓練や放水訓練を行いました。

さらに、内部および外部への通報対応、負傷者対応、ライフゼムの装着訓練なども実施し、災害発生時における対応力の強化に努めています。



神港有機化学工業

神港有機化学工業では、労働災害を未然に防ぐことを最優先課題と位置づけ、安全管理者と衛生管理者が連携しながら、安全衛生管理体制の継続的な整備・強化に取り組んでいます。今期、従業員数が50名を超えたことを契機に、安全衛生体制をいっそう強化するとともに、メンタルヘルスケアの取り組みの一環として、ストレスチェック制度の導入を開始しました。これらの取り組みを通じて、心身ともに健康で安心して働くことのできる職場環境の整備を進めています。

防災活動においては、地域と連携した取り組みを重視しています。市民防災活動への継続的な参加に加え、神戸市消防員の指導のもとでの実技訓練への参加や、神戸地区石油コンビナート各事業所との合同研修会を実施し、防災意識および実践力の向上に努めています。こうした地域と連携した防災活動は、防災体制の強化に加え、事業所としての信頼性向上にも資するものと考えています。

神戸石防協放水競技大会

2025年3月6日、当社は、神戸地区石油コンビナート等特別防災区域協議会が主催し、神戸市消防局が審判を務める放水競技大会に参加しました。本大会には9事業所が参加し、地域の防災力向上を目的とした実践的な訓練が行われました。

神港有機化学工業チームは、基本操法を重視した確実な動作のもと、現場を想定した実践形式で放水を行い、日頃の訓練の成果を発揮しました。



耐熱性と浸透防止性能を強化した防護手袋の導入

従来使用していた防護手袋は、化学物質に対する浸透防止性能について一定の水準を満たしていたものの、高温サンプリング作業において高温の試料容器や配管部に接触する機会が多く、熱による手袋の劣化や作業時の安全性低下といったリスクが指摘されていました。

こうした課題を踏まえ、当社では、高温部材との短時間接触にも耐えうる耐熱構造と、液体の浸透を防止するバリア層を兼ね備えた防護手袋を新たに導入しました。本対応により、作業中の安全性向上とリスク低減を図り、安全で安定した作業環境の確保につなげています。

